

■ ふるさと探検 ～上寺・長束町～

(人と地域が輝く常盤協議会 文化・子ども部会)

1 【活動の趣旨】

「ふるさと探検」は学区内の地域の歴史や文化などについて、子どもと大人がともに学ぶことによって、「ふるさと常盤」に対する誇りと愛着を深めることができるように行うものである。

2 【特徴的な活動内容】

平成26年度から始まり今年で10回目となる「ふるさと探検」は、上寺町と長束町町内会の方にお世話になり、11月16日(土)に実施。センターを出発し、上寺町西蓮寺に到着。松葉会より、上寺町の「でんちこだぬき」民話が西蓮寺を舞台になっているなどのお話を聞いた。

長束町は、戦国武将長束正家が生まれ育った地であり 養国院(跡地)は長束正家が母か息女の供養をするために建てたお寺である。春日神社には、長束正家が亡くなった豊臣秀吉の木像を密かに作らせ、神格化した秀吉を拝む目的で祀ったとされるいわれがある。阿弥陀寺には、長束正家の位牌が今も残っているということも学んだ。

春日神社には木造の獅子頭が伝えられ、サンヤレ踊り等に使用されていたが、室町時代(1502年)に製造されたものであり、現在は栗東歴史民俗博物館で保管されているなどのお話を聞いた。その後、古来から京の都の行き帰りに使われていた歴史ある志那街道を歩きセンターに帰着した。

3 【実施に当たっての工夫】

読書グループ松葉会により、上寺町の民話や、長束町の長束正家にかかわる紙芝居を興味深く聞いた。

また、町内会の方の努力により、博物館に保存されている「獅子頭」の現物を見せていただくことができた。

4 【事業の成果】

「ふるさと探検」事業は、歴史的価値のある学区の町内を、毎年持ち回り形式で訪ねることにより「ふるさと常盤」の自然や先人の築いた歴史・文化に誇りを持ち、大切にするきっかけとなっている。

各町内にある歴史については、生まれ育った学区内の人でさえ、知らなかったことがたくさんあり、改めて発見する機会となった。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

子どもと大人がともに学び合う事業であるが、年々参加者が減少しているのが課題である。今後、多くの方に参加して頂けるため募集対象の方法など、課題が尽きない。

